

雨よけピーマン類の栽培における天敵を利用した 総合的害虫管理技術の省力・軽労化視点による経営評価

福井淑子・浜渦敬三

The Economic Evaluation of Integrated Pest Management in Relation to Savings on Time and Labor, Applied to Sweet Peppers under Rain Shelter Cultivation in Japan

Yoshiko FUKUI and Keizou HAMAUZU

要 約

中山間地域の雨よけピーマン類における総合的害虫管理技術のうち天敵導入の効果について省力・軽労化視点による評価を行った。

1. 天敵導入により、殺虫剤散布時間は 59～83% 減少し、関連する作業を含めても 26～32% の作業時間短縮効果があった。
2. 栽培作業のうち最も負担が重い作業は薬剤散布であり、最も負担が軽い作業は天敵放飼であった。労働強度は、薬剤散布作業が強労働、天敵放飼作業が軽労働に区分された。
3. 作業時間短縮効果を家族労働費に換算すると、天敵導入により 33～43% の労働コスト低減効果が見込まれた。
4. 雨よけピーマン類生産者は、天敵導入に対して使い方や適期防除のタイミングについて不安を感じており、慣行の殺虫剤を含めた体系的防除や、あらゆる世代の人に使いやすい使用方法の確立が求められている。

キーワード：雨よけピーマン類, 天敵, 総合的害虫管理技術, 省力・軽労化, 経営的評価